

# アスチールパイプ

## 転造ねじ加工の対応サイズ

# 50Aまで拡大

### 公共工事向けなど 配管の耐震性向上を提案

鋼管特約店のアベスチールパイプ（本社・千葉県浦安市、社長・阿部秀雄氏）は、転造ねじ加工の対応サイズを最大50Aにまで拡大した。配管の耐震性向上などに寄与できることから、公共工事や防災関連物件向けなどで

提案営業を推進している。 「転造ねじ」は、ローラー（転造丸ダイス）を鋼管に押し付けてねじ山を盛り上げる加工。従来の切削ねじに比べて、同じ肉厚を保ちながら金属組織を切断することなくねじ山木、建築向け配管用鋼

管のねじ加工設備を増強。レッキス工業製のパイプマシン2基とパイプマシンに鋼管を平自動で搬送する独自の



転造ねじ加工の様子

省力省人連続鋼管ねじ加工装置1基を新設した。転造ねじ加工は、この増強したパイプマシン2基で行っている。これまで15A、20A、25A、32Aに加え、今回新たに40A、50Aまでの加工に対応できるようにした。同社で加工した転造ねじは、すでに

次世代高速

新幹線のトンネル、高速道路インターチェンジの橋脚、山間部の地

滑り防止工事などに納入実績がある。 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、当初東京五輪に向けたインバウンド需要などを見込んだホテルや観光施設関連の

物件は計画の見直しや中止が相次いだ。一方で在宅ワークの拡大などから、大型の物流倉庫やデータセンター、通信関連設備の整備需要、国の国土強靱化政策にともなう公共工事

や防災関連の物件は堅調。また大型施設では排水設備等で配管の大型化ニーズが増えている。 これら案件については、来以降も一定の需要が見込まれる。ア

ベスチールパイプでは各需要家に対し転造ねじ採用に向けた提案営業を推進。土木建築配管現場に対して、少量多サイズのジャストイライム機能を活用しながら拡販を図る。

